

滋賀県・私立立命館守山中学校・高校がICT活用の公開授業を開催

ICT活用で、生徒の学び方改革と 教師の授業改善を図る

全国の多くの高校でICTを活用した授業改善が進められている。
2014年度からタブレットを段階的に導入してきた滋賀県・私立立命館守山中学校・高校は、
生徒全員がタブレットを持ち、授業や課外活動、家庭学習など、
学校生活のあらゆる場面で活用している。
タブレットの活用により、教師の指導や生徒の学びはどのように変わったのか。
同校が2017年6月に開催した「ICT公開授業研究会」の様態と併せてレポートする。

**基礎・基本は自学自習で培い、
協働的な学びに注力**

立命館守山中学校・高校では、生徒の資質・能力を高める方策の1つとして、2006年度の開校時からICTの活用を積極的に進めてきた。14年度、校舎内のWiFi環境の整備を機に、中学1年生と高校1年生にタブレットを導入。16年度までに生徒全員に行き届かせた。さらに、15年度から高校で、17年度からは中学校においてクラウドサービスによる授業・学習支援教材「Classi」(*)を導入し、自学自習と協働的な学びを軸とした「Ritsumori Style」という学習メソッドの実践を進めている。

「Ritsumori Style」が目指す姿は、家庭学習で基礎学力を身につけ、授業では発展的・協働的な学びを充実させながら、深い学びを実践することだ。ICT推進担当の國領正博先生は次のように語る。

「生徒同士で議論し、思考を深めるためには、基礎学力が欠かせません。しかし、授業の中で知識・技能の理解と定着を促し、協働学習まで行うのは限界があります。そこで、ICTを活



立命館守山中学校・高校校長
寺田佳司 てらだ よしお
教職歴31年。同校に赴任して1年目。立命館宇治中学校・高校副校長を経て、現職。



立命館守山中学校・高校
伊藤久泰 いとう ひさやす
教職歴13年。同校に赴任して4年目。メディア教育部主任。立命館慶祥中学校・高校を経て、現職。



立命館守山中学校・高校
國領正博 こくりょう まさひろ
教職歴27年。同校に赴任して4年目。ICT推進担当。滋賀県の公立中学校勤務を経て、現職。



立命館守山中学校・高校
栢野祐介 かの ゆすけ
教職歴6年。同校に赴任して7年目。進路部主任。



立命館守山中学校・高校
曾根威志 そね たけし
教職歴12年。同校に赴任して11年目。高校第1学年主任。滋賀県の公立高校勤務を経て、現職。

立命館守山中学校・高校

◎「チャレンジ・チェンジ・クリエイション」の3Cをコンセプトとする教育を展開。平和学習やキャリア教育、ICT活用などで先進的な取り組みを進めている。

◎設立 2006(平成18)年

◎形態 全日制/普通科/共学

◎生徒数 1学年約320人

◎2017年度入試合格実績(現役のみ)

国公立大は、お茶の水女子大、東京大、名古屋大、滋賀医科大、京都大、京都工芸繊維大、大阪大、九州大などに12人が合格。私立大は、自治医科大、慶應義塾大、東京理科大、早稲田大などに15人が合格。ほかに、立命館大、立命館アジア太平洋大に255人が進学。

◎URL <http://www.ritsumei.ac.jp/mrc/>

* 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社であるClassi株式会社が提供する、学校教育でのICT活用を総合的に支援するサービス。



写真1 「教科の部屋」は、教科・学年別に設定されている。生徒は自由にアクセスし、先生や友人に質問している。

用した家庭学習で基礎学力の定着を促し、授業では学校でしかできない協働学習や探究学習を行い、授業と家庭学習の相乗効果をねらいました」

家庭学習では、Classiiの学習動画とWebドリルを組み合わせて生徒自身のペースで学習できるようにするとともに、学習時間を記録させることで、自己管理能力の育成と家庭学習の質向上を目指す。

「教科の部屋」という校内グループ機能による教え合いは、生徒にとつてなくてはならない学びの場になっている。1人で学習していても、この機能で質問すれば同級生の誰かが解説してくれる(写真1)。これにより、教師は難易度の高い質問への対応や、つまづいている生徒の支援に多くの時間をかけられるようになるなど、指導の変化にもつながった。

生徒と保護者への情報伝達と共有が確実かつ効率的に

生徒・保護者・教師の間で、学校生活にかかわる情報の伝達と共有が格段に円滑になったことも、Classiiがもたらした大きな変化だ。学年主任の曾根威志先生はこう説明する。

「紛失しがちな配布物をClassiiで配信することで、確実に生徒と保護者に情報を届けられるようになりました。進路希望調査や学習意識調査なども、Classiiではデータの集計からグラフ化までが自動で行われるため、教師の負担が減りました」

今後は、進路希望調査や模試成績、レポートなどを生徒個々に蓄積するポートフォリオのシステムを整備する予定だ。進路部主任の栢野祐介先生は、次のような期待を寄せる。

「生徒が自身の取り組みや歩みを振り返ることができるようになれば、自分の将来を考えるきっかけとなるだけではなく、担任や学年団が、より生徒個々に合ったアドバイスができるようになるはずですよ」

ただ、ICTはツールであるだけに、効果的に活用できるかは教師個々の力量に左右されやすい。そこで、

同校では、14年度から「ICT公開授業研究会」を年2回実施し、保護者や他校の教師、教育関係者との交流を行うことで指導力向上を図ってきた。公開する授業は年々増えており、今年は大半の授業を公開した。メディア教育部主任の伊藤久泰先生は、そのねらいをこう語る。

「先生方には、普段通りの授業をしてもらうようにしています。その上で、多くの先生や保護者からご意見をいただくことが授業を見直すきっかけとなり、新たなチャレンジにもつながると考えています」

不易の部分を大切にしつつ最先端の教育を取り入れる

今や学校生活に欠かせないツールとなったタブレットだが、定着までには課題もあった。導入までの準備期間が短かったこともあり、当初は戸惑う教師も多く、生徒や保護者からは必要性を問う声もあった。それでも短期間で定着した大きな要因は、活用のハードルを下げたことにある。

「先生方には活用の際に指導案の提出などを求めず、『まず使ってみよう。失敗してもかまわない』と何度

も伝えました。生徒には、この取り組みが最先端の教育だということを強調し、プライドを持って学習しよう励ましました」(國領先生)

そうした働きかけの結果、教師も生徒も、タブレットは授業改善や学校生活に必要な不可欠なものだという認識を持つようになったという。

ただし、ICTを使うこと自体を目的にしてはいけないと、寺田佳司校長は強調する。

「最も大切なのは生徒の力を伸ばすことであり、そのツールとしてICTを使うという認識でなければ、機械に振り回されてしまうだけです。生徒の学力や人間力を高めるのが教育の使命であるという不易の部分を押さえた上で、時代が求める最先端の教育をどん欲に取り入れていくことが重要だと考えます」

今後の課題は、ICTの活用と学力の関係を明確にしておくことだ。

「ICTは学校の文化として根づきつつあり、今後は生徒が伸びていることを明確にする必要があります。データを積み上げながら、学力が付き、大学や社会で活躍できる力が育っているのかを、真摯に検証していきたいと考えています」(寺田校長)

全国から教員が集まり、学校を超えて、 教育におけるICT活用のノウハウを共有

様々な教科・科目で

ICTの活用法を公開

17年6月、立命館守山中学校・高校で通算5回目の「ICT公開授業研究会」が行われた。学外からの参加者は年々増加しており、前回の150人に対し、今回は青森県から沖縄県まで211人の学校関係者と、保護者140人が来校した。

今回は、「ICTを活用した協働学習と個に迫る未来型授業の創造を目指して」をテーマに、授業公開に加えて、Classsi株式会社の協力の下、先進的な取り組みをする県外の高校3校を招いた分科会も実施した。午前中は、中・高合わせて約80の公開授業が行われた。倉本先生が担当した高校2年生「物理基礎」の授業では、生徒同士がタブレットを使いながら運動方程式の立て方を話し合う姿が見られた(写真2)。授業を

受けた生徒は、「タブレットを使うと、

自分の考えと友人の考えを簡単に比較したり、自分の間違いを客観的に見たりすることができず。倉本先生の授業は、動画も配信されるので予習・復習がしやすく、自分のペースで家庭学習に取り組んでいます」と語る。

曾根先生の高校1年生「音楽」の授業では、ピアノの弾き語りをする

写真2 「物理基礎」では、運動方程式の問題を、タブレットに図を描きながら考えた。互いに自分が描いた図を見せながら、話し合う姿が見られた。

先生の姿を生徒がタブレットで撮影し、その動画を見ながらメロディーラインと音楽パートの関係を生徒同士で考察した(写真3)。

分科会で

学校間・教師間の交流を図る

午後には参加者全員による全体会が開かれた。冒頭の挨拶で、寺田校

写真3 曾根先生の引くピアノの弾き語りをタブレットで撮影する生徒たち。この後、生徒は小グループになり、動画をしながらメロディーの構成について話し合った。

長が不易と流行を踏まえた改革の重要性を強調。「ICTは導入して終わりではなく、ツールとしてどのように指導に使い、その成果をどう評価するかまでを考えなければならぬ」と呼びかけた。続いて、教育におけるICTの可能性について、Classsi株式会社の代表による講演が行われた。

その後、テーマ別の分科会が開かれ(図)、授業やその他の指導場面におけるICT活用についてノウハウの共有が進められた。Classsiを導入したばかりという鳥取県立鳥取湖陵高校の森本研吾先生は、「授業や進路指導におけるClasssiの活用について学びにきました。公開授業で、生徒が自然にタブレットを

写真4 東百舌鳥高校の分科会の様子。参加した教師が小グループを作り、話し合いながら同校への質問の優先順位を検討した。

図 分科会のテーマ

	テーマ	発表者・学校
分科会①	Classi及びICT活用授業例 中学校	國領教諭
	Classi活用事例(理科)	稲田教諭、森島教諭
	高校・学年活用事例&進路・キャリア活用事例	曾根教諭、栢野教諭
	Classi活用事例(数学)	中山教諭
	Classi導入実践先進校事例①	宮城県・私立東北学院中学校・高校
分科会②	中学・学年活用事例	角原教諭
	Classi及びICT活用授業例 高校	辻教諭
	Classi導入実践先進校事例②	大阪府立東百舌鳥高校
	立命館守山ICTのこれまでとこれから	國領教諭、伊藤教諭
	Classi導入実践先進校事例③	兵庫県・私立百合学院高校

使う姿が印象的でした。分科会では、本校と同じようにClassiを導入したばかりの学校の先生方と、課題や悩みを共有でき、心強く感じました」と感想を語った。

全国の先進校の取り組みを紹介する分科会では、仙台市の東北学院中学校・高校、大阪府立東百舌鳥高校、兵庫県尼崎市の百合学院高校がClassiの活用を発表。立ち見の出る分科会もあるほど盛況で、参加者の関心の高さがうかがえた。

先進校事例紹介分科会

復習用の動画をClassiで配信して理解を深める

兵庫県・私立百合学院高校

百合学院高校の内橋^{うちはしともこ}朋子先生から、同校のICT導入の経緯と、先生が行う国語の授業が紹介された。

ICTについて自身も全くの初心者だったと語る内橋先生は、真面目だが学力の定着がいま一步の生徒の様子を見て、ICTを活用して生徒同士が学び合う授業スタイルに可能性を感じたことが、ICTを使い始めたきっかけだったと言う。校内のICT活用を進めるために、自らファシリテーションやアクティブ・ラーニングなどの講座も受講している。

先生の『羅生門』の授業では、生徒に質問づくりをさせ、グループワークで学びを深め、授業後に先生作成の解説動画を配信している。教師が初めから解説をするよりも、「学んだことが頭に残る」と生徒にも好評で、学習成果も出始めている。また、タブレットで撮影した授業中の生徒の様子を職員室で披露したところ、ICT活用によって生徒が変わることを教師が実感でき、活用したいという声が多く聞かれるようになったという。

有志の教師を中心にClassiの浸透を図る

宮城県・私立東北学院中学校・高校

東北学院中学校・高校では、創立150周年事業の一環としてICTを活用した授業改善を目指し、ノートPCの整備を進めながらClassiを導入した。

校内で活用が広まったのは、有志の教師が中心となって活用法の勉強会の開催や先進校訪問といった、草の根的な活動があった。また、学年主任が、学年・学級連絡や保健便り、学習記録などをすべてClassiを使って配信し、毎日使うようにしたことも浸透につながったという。

今では、校内グループ機能を利用して生徒に課題や解答を配布し、授業の振り返りをClassiで提出させることで、生徒の理解度をリアルタイムに把握している。さらに、担任が朝の打ち合わせをしている間、生徒はClassiのWebテストで自習をしているというところにも活用が広がっている。それにより、生徒と教師のコミュニケーションも、今まで以上に密に図れているとのことだ。

学力向上と教師の負担減を考慮しClassiを採用

大阪府立東百舌鳥高校

大阪府立東百舌鳥高校がICTを導入した理由は、学力・進学実績の向上という学校改革目標の実現と、その実現のために教師の負担が増加することを防ぐ点にあった。家庭学習習慣の定着に向け、課外補習を増やすのではなく、生徒の幅広い学力に応じた課題を効率よく配信できることからClassiを選んだという。

生徒の所有するタブレットやスマートフォン^{スマートフォン}の活用を前提にしながら、どちらも持っていない生徒には学校のパソコン^{パソコン}を利用させることで生徒全員が使える環境を整え、保護者の理解を求めた。また、Classiの導入に際し、ほかの教材の購入を見直すことで、保護者の経済的な負担が増えないようにも配慮した。

現在は、英語の学び直し、週2回のWebテストなどでClassiを活用している。また、Classiは生徒の家庭学習用という方針を明確に打ち出し、教師には授業での活用を義務づけていなかったが、現在では授業での活用も増えてきているという。